

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	EISUみらい塾		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 1月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもの最善の利益を考えて職員が一丸となって支援に当たっている。 (職員の個々の良さを発揮できている)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「個別支援計画」の作成時には目標の検討、最適な支援を出し合い検討していくという過程を丁寧に行っている。</li> <li>中間評価、モニタリングで改善すべき支援を常勤職員全員で協議し、よりよい支援のために必要な準備を分担して作成し、非常勤講師の方にも周知している。</li> <li>「個別支援計画」がすぐに確認できるように各自のケース記録ファイルの表紙の裏面に貼っている。</li> <li>(個別支援のため) 当日の担当者が次回に行う内容を準備しておく。(支援に継続性を持たせるため)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間評価、モニタリングにゆとりを持って取り組む。</li> <li>アセスメントシートの改善や標準化されたツールの導入を図る。</li> <li>非常勤講師も支援方法の提案や検討に加わってもらう。</li> <li>現在作成しているワークシート等をよりよいものにバージョンアップしていく。</li> </ul>
2	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、職員全員で取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の会議で療育について、業務についての課題と改善点の確認、共有を行っている。</li> <li>上手くいっている点についても共有し、各自のスキルアップにつなげたり般化したりできるようにしている。</li> <li>気づきなどその場ですぐに共有する場合もあり、臨機応変に対応できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の会議に事務長や事務職員にも参加してもらうことにより、様々な角度からのアドバイスをもらえるようにする。</li> <li>事務職員からの意見をもらうことで、全職員が経営者目線を持てるようにする。(危機管理意識、コスト意識、相手意識、目標達成意識を高める)</li> <li>事業所評価にもっと時間をかけて、職員の意欲や意識につながるようにする。</li> </ul>
3	特設行事や保護者会を魅力あるものにするためにみんなでアイデアを出し合って企画している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特設行事は開所以来、毎回違う内容を企画し子どもたちに楽しく参加してもらえるようにしている。</li> <li>保護者会はテーマを設定してワークショップ型のミーティングを行ったり、保護者の意見を取り入れたりしてバラエティーに富んだ内容になるように工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特設行事のターゲットを変化させるなどしてより多くの利用児童に参加してもらえるような工夫をする。</li> <li>保護者会開催時の児童の預かりをどうするか検討する。</li> <li>回数や曜日についても検討し、より多くの保護者に参加してもらえるように工夫する。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラムや家族等の参加できる研修の機会や情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアレントトレーニング等の知識や技能を持つ職員がいない。</li> <li>今年度は新入職員が多く、研修をするゆとりがなかった。</li> <li>所内に掲示したりカウンターに置いたりして情報提供はしているが、十分に伝わっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアレントトレーニングの研修を受ける。</li> <li>より多くの保護者に伝わるように情報提供の方法を工夫する。</li> </ul>
2	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組合わせて支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別療育を基本にしているので集団(小集団)での療育は、偶発的なものになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団活動が必要と思われる利用児童生徒には他の事業所との併用を勧めたり、特設行事への参加を勧めたりする。</li> <li>計画的に小集団活動ができるように時間配分の再編成をする。</li> </ul>
3	地域支援・地域連携という観点から、地域社会からの信頼を得るための情報発信や、子どもが通う学校や放課後児童クラブ等との連携、他事業所や相談支援事業所との連携を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の項目に比べて地域支援、地域連携という意識が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域支援、地域連携についての意識を高め、積極的に地域との関わり、他機関への働きかけをしていく。</li> <li>職員も連携の場に参加する。</li> </ul>